

作物名：りんご
病虫害名：銀葉病（病原：*Chondrostereum purpureum*）



写真1 銀色を呈した発病葉



写真2 左：健全葉、右：発病葉

1 被害の特徴と診断のポイント

- 本病原菌の産生する毒素によって被害樹の葉が銀色に鈍く光る。
- 症状が進むと、葉の表面に無数の亀裂が生じ、褐色となる。
- 発病樹は次第に症状が拡大し、最後には衰弱枯死する。
- 枝幹部の枯死部分に、子実体（ムラサキウロコタケ）を秋季～初冬に形成する。

2 伝染源・伝染方法

- 伝染源は、発病樹に発生した子実体（ムラサキウロコタケ）。
- 子実体に形成された担子胞子が秋季～翌年春季に飛散し、せん定痕や枝幹の傷口に感染する。
- 本病原菌はりんごのほかに、なし、うめ、すもも、ハンノキ、ヤナギ、ポプラ、ブナ、クヌギなども侵す。

3 防除方法

- 有力な治療方法はない。
- 薬剤防除は困難。
- 子実体を除去して、ほ場外に持ち出して処分する。
- 衰弱の激しい被害樹は早めに伐採して、周囲への感染を防ぐ。伐採後の枝幹等はほ場内に放置せず、ほ場外に持ち出して処分する。
- せん定痕や傷口にペースト剤を塗布し、感染を防ぐ。

4 出典

(1) 参考文献

- ひと目でわかる果樹の病虫害第三巻（改訂第二版）（日本植物防疫協会）
- インターネット版 防除ハンドブック リンゴの病虫害（全国農村教育協会）

(2) 写真

- 宮城県大河原農業改良普及センター撮影